

平成 28 年度 双葉町復興町民委員会
第 2 回 町の復興部会 報告書 (0907)

- 日時 平成 28 年 9 月 2 日 (金) 13 時 00 分から 16 時 00 分
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2 階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「JR 双葉駅周辺のまちづくりの具体的な取組みについて考えよう」
A : 「駅前交流拠点」と「周辺エリアとの連動・中心としての役割」
B : 「歴史・文化交流拠点」と「まちなかの景観保全と賑わい再生+空き地・空き家対策の推進」
C : 「沿道交流拠点」と「幹線道路沿いの用地の有効活用」
- ワークショップ成果の発表

◇グループ A 「駅前交流拠点」と「周辺エリアとの連動・中心としての役割」
(参加者：坂本新一、白岩寿夫、澤上榮、石田翼、横山久勝)

発表の要点：

- 駅の西側が拠点になるので、車で通行できるように自由通路を整備すればよい。また、高齢者が通れるよう、エレベーターで自由通路に行き来できればよい。
- 東西の自由通路は高齢者向けに作ってほしい。その上に店を作り通路自体をショッピングモールにするとよい。
- 駅のシンボルとしては、からくり時計を復活させたい。また、駅をタワーにして高い場所から町を見ることが出来る場所を作る。電柱を地下に埋める。
- 商業施設は、飲食店・軽食・薬屋・居酒屋、コンビニ、などの買い物ができる場所、高齢者が憩いの場として集まれる場所などがあるとよい。
- 墓参りのための花屋、一時帰宅のための宿泊施設があるとよい。
- 賑わいの再生として、プチ横丁・屋台・ラーメン横丁があると、まちなかに立ち寄りやすい。
- 娯楽施設としては、グランドゴルフもよい。
- ATM・郵便局・理髪店・新聞店も必要という話がでた。
- 「古き良きまちなみ」ということで、川越のような町があるとよい。
- 交通については、駅から厚生病院へのバスやタクシーがあるとよい。
- 役場については、人口の増加に合わせて役場機能を双葉町内に分割する、すべての機能を双葉町内に持ってくる、という二つの意見がでた。
- 高齢者ばかり帰還しても町が成り立っていない。若い人が帰ることができるまちづくりが必要だ。
- 3年後の常磐線開通を踏まえて J R 東日本と一緒にまちづくりを進める必要があるだろう。

【カードに書かれた意見】

《シンボル》

- 川越の様な古きよきまちなみ
- 電柱を地下へ
- 昔、からくり時計があった
- 高いところから町が見渡せるタワー

《自由通路》

- 立派な自由通路（上に商業施設）
- 地元のお店を自由通路の中に入れる（飲食）
- 自由通路を車が通れたらいい
- 自由通路は高齢者に使いやすくする
- 自由通路は今あるものを活用する

《交通》

- 病院と駅を結ぶバス、タクシー
- 駐車場

《役場》

- 役場があると、人が戻るきっかけになる
- 役場は西側がいい
- 5～10年後には役場は双葉町内に全てあってほしい
- 住民の割合にもよるが、役場の機能の一部が戻る（連絡事務所）

《日常使い》

- ATM
- 郵便局
- 床屋
- 新聞屋
- スーパー

《商業》

- 飲食店（定食、居酒屋）
- コンビニ（東西両方）
- 高齢者がふらっと寄れるプラットフォーム
- 商業施設であり公共施設

《娯楽》

- グランドゴルフ（高齢者のための）

《にぎわい》

- ラーメン横丁
- プチ横丁

《訪問時》

- お墓参りのお花屋
- 泊まれる施設（親の元へ行く、お墓参り）

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇グループB「歴史・文化交流拠点」と「まちなかの景観保全と賑わい再生＋
空き地・空き家対策の推進」

(参加者：齋藤六郎、菅本洋、木幡敏郎、小川貴永、相樂比呂紀、木幡治)

発表の要点：

- 中学校の体育館を憩いの場にする。歴史資料館については、既存のまま活用する。図書館は、別の場所に移転したらよい、このままでよい、という意見に分かれた。
- 町民グラウンドは、ソフトボール大会や体育祭など思い出の多い場所である。既存のまま再利用し、周辺にいろいろなものができる。多目的グラウンドとして拡張してもよい。
- 旧道については、道幅が狭いので拡幅し、大型バスが通れるようにする。
- 前田川の川沿いは遊歩道・サイクリングロードにする。東京からツアーを組んで大型バスで来てもらったが、駐車場所がないなどの問題があった。トータルで整備しなくてはならない。
- 空き地・空き家については、土地利用整備事業を行うために、調査を行い、どのような施設を作るべきかという構想に結び付ける。
- 旧道はダルマ市の際に道路に店が並びにぎわった。そういう場所を残していきたいという思いもあるが、古いままでよいのか。新生双葉町を目指すならば、若い人が帰って来られるようなまちづくりを進めたい。
- 双葉町の歴史文化を残すことについて、中心部・新山と長塚を結ぶ道路を活用すべきだ。
- 中心の道路を今後拡幅するのがよいが、まだまだ交流人口もわからないので商店も作りにくい。それであれば、マルシェなど市場として農産物販売などを定期的に行うことも考えられる。
- 旧国道と前田川の間都市計画をきっちりきめれば、歴史・文化交流はしっかりできる。

【カードに書かれた意見】

《全体を通して》

- 全体的に整備する
- 旧道からグラウンドへの道を整備
- 町民グラウンドに駐車場
- グラウンドから前田川への道を整備する
- 町民グラウンドゾーンの利活用には6号から直接入れる道路を作る

《新しいエネルギー学園都市》

- 産業拠点と連携するゾーンにする
- 学生寮（駅西ゾーン）

《旧中学校体育館》

- 憩いの家を建てる

《町民グラウンド》

- そのまま活用
- 駐車場がない
- 様々な利用ができるように多目的にする
- 公園として整備
- 周囲に桜を植える

《歴史民俗資料館》

- 町の遺産の保存や学び場として再利用

《図書館》

- 図書館は文化のバロメーターといわれるので、蔵書の充実に努力する
- もっと静寂な別の場所に移転
- グラウンドに来た人の更衣室などに再利用する

《旧道の道路整備》

- 道路幅を広げる（観光バスが入れるように）
- 車を通行止めにして歩道のみ

《街並み保存》

- 旧道の街並みは保存したい
- 富沢酒造（白富士）を残したい
- 通りの復活：マルシェを定期的で開催する
- ダルマ市と新山秋祭りを一緒にする

《空き地・空き家対策》

- 住民の協力をお願いして調査を実施
- 個人財産なので確認すること
- 壊すか、立て直すか、売りたいか、貸したいか、住民の気持ちを知る
- 地主として売りたいくないが、活用したい
- 空き家バンクを設立
- まちなか通りの再整備（土地区画整備事業）
- 税などの免除は必ず
- 浜野地区の代替地として利用
- 賃貸住宅として活用
- 進出企業に対して従業員宿舎

《前田川》

- 桜の木は町のシンボル
- 桜並木を保存
- 土手が狭いので土手の整備拡幅
- 遊歩道を作る
- サイクリングロードをつくる
- お茶屋をつくる（水戸黄門）
- 定期的な草刈、ふた草を刈って、菜の花の再生
- 前田川の桜の整備、ライトアップ

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇グループC「沿道交流拠点」と「幹線道路沿いの用地の有効活用」

(参加者：木幡智清、真柄正洋、伊藤哲雄、原中良博、藤田博司、高野利彦)

発表の要点：

- 震災前に6号線は4車線化の工事を行っていた。6号線は4車線にする
とよい。
- 駐車場、体育館と厚生病院を併設した道の駅をつくるのがよいと考える。
道の駅を双葉町のコミュニティゾーンとする。なんでもできる道の駅に
してほしい。特区を作ると簡単に誘致できるのではないか。駅から6号線
までは400mくらいなので、6号線を中心にして、車で来る人も集まる
ように、広い駐車場を整備したらよい。
- 駅前のコミセンは役場の施設にするのがよいと考える。東西通路によっ
て人が東側から西側に移動できるようにする。
- 駅・道の駅・産業拠点の3つができればよい。
- 大々的にショッピングセンターを周りに作っていきたいが、店がまばら
にできると人が集まりにくい。道の駅を病院、老人ホーム、スポーツ、コ
ンビニ、飲食なども全部入れた複合的施設とすれば、人の増加につな
がる。
- 現在の建物を使わないといけないことはわかる。幼稚園の前に桜が咲い
て、祭りや盆踊りをする事を考えると、残しておくところは残したい。
- JRが開通しても、電車の本数が少ない。常磐線よりも6号線のほうが重
要だ。車で来た人が立ち寄る施設をつくり、その周辺から固めるのがよ
い。医療施設など優先順位が高いものから着手する。飲食店・コンビニも
6号線沿いに欲しいが、順番にいくと、まずは道の駅を作り、それに付随
しながら人口の増加に合わせて店舗・施設の増設を考えていくのがよい。
- 商工会の立場から、事業再開できる場所というところは、道の駅周辺だ
と思う。
- 道の駅にドッグランを作ってほしい。

【カードに書かれた意見】

《全体》

- 6号線を4車線道路にして、道の駅を整備し、人が集まる街とする

《道路》

- 6号線とICからの道路を4車線に
- シンボル軸から6号線に下りる道路
- 車での駅西へのアクセスを改良する
- 駅前の道も広げる

- バスは旧国道のみ（以前は）
- 電柱を地下に埋める

《道の駅ふたば》

- 駅から歩いて5分くらい
- 新しいまちに人が集まる
- 道の駅の形状はダルマ、清戸迫古墳、マリンハウス、双葉高校のマーク
- 駐車場が必要
- スポーツ施設（成人式など）
- 病院
- 老人ホーム
- 屋内プール
- 温泉施設
- 役場
- JA
- ドッグラン

《6号線沿いの商店・商業》

- 中野で働く人のためのお店
- コンビニ
- 衣食住の買い物のできる施設
- こだわりの商品を売るお店
- 大型のショッピングセンター（イオン）
- 歓楽街
- 弁当屋さん（配達してくれる）
- 銀行
- 宿泊施設
- ガソリンスタンド
- 飲食店、ラーメン屋、焼き肉店、すし、そば、ケーキ屋、カフェ
- 農産物直売所
- 美容院
- 車整備

《娯楽》

- カラオケなどの娯楽は、後でよい

■ファシリテーター金子先生によるまとめ

- Aチームは、車社会の双葉町において、鉄道駅前を自分たちの町の顔にするという議論がやや難しかったようだ。
- ただ、駅前に横丁を作るなどして、双葉ブランド・名物を駅で発信することができるのではないか。
- 外から来た人にとっては駅が双葉の顔になるので、印象づけることが大切だ。
- Bチームの旧街道の議論はイベントを重視し、マルシェ開催のアイデアがあった。旧街道は人のための道として、双葉町を発信できる場所となるとよい。
- Cチームの道の駅の交流拠点の提案は説得力があった。鉄道の駅と連携した道の駅というのは面白い。

■福島県復興局池田様からのコメント

- 具体的かつ思いのこもったアイデアをもらった。しっかり復興のためのお手伝いをしていきたい。

■福島県避難地域復興課後藤様からのコメント

- たくさんの意見を聞いた。双葉町に対する愛を感じた。思いのこもった提案がこれからまとめられる。提案はしっかりしたものができる。事業を進めるためにはお金や協力が必要だ。行政側で取り組むべきことは、スクラムを組んで行っていきたい。

■その他の意見

- 火葬場を早く修復してほしい。浪江町は3月から帰還が始まるため、浪江の区長からお願いがあった。できるだけ早く検討してほしい。

以上

資料2

双葉町復興町民委員会 第2回町の復興部会 座席表

(敬称略)

